

保健福祉学部 社会福祉学科 准教授 小野川 文子

先日、高校を卒業したAさんから「先生、元気ですか？私は今も元気に学校とバイトを頑張っています」とメールがありました。A

さんは、中学・高校の6年間、自宅に引きこもっていたところ、何とか行政とながり児童思春期精神科に入院。しかし、そのときには6年間の昼夜逆転の生活と食生活の乱れで重度の糖尿病を患っていました。

再発を決定し、18歳で特別支援学校(病弱)高等部に入學したものの、高校生活が順調に行っていたのはたった数カ月間。その後は「朝起きられず1日寝て過す」「何かのきっかけで気持ちが落ち込み、何もできなくなる」の繰り返しでした。何とか卒業資格と専門学校合格を得たものの、生活保護家庭のため、高校卒業と同時に自分の学費や生活費を稼ぐ必要がありました。決して「大丈夫」と送り出し

たわけではなかっただけに、Aさんからのメールはとても嬉しいものでした。卒業後は福祉の仕事に就きたいと語っていました。

平成27年の小中学生の不登校は12万2897人、前年度比3280人増(学校基本調査)と、減るどころか増加の一途です。心身症や精神疾患の子どもも増え、病気の子どもたちが通う特別支援学校では病気のトツブが「心身症などの行動障がい」で2割以上を占めています。また、幼稚園教諭や保育士、学校の養護教諭が最近実感する「子どもからのだのおかしさ」ベスト10では、「うつ」に関連する項目(「夜、眠れない」「腹痛・頭痛を訴える」「首・肩こり」「うつ傾向」「腰痛」など)が上位にランクされ、健康な子どもへの調査でも「神経系の問題」が指摘されています。(子どもからだと心白書2015)

現代の子どもたちは、学校でも家庭でも慢性的なストレスの中で生活をし、非常に生きづらさを抱え、心からだが悲鳴をあげているのかもしれない。また、子どもへの生活に関するこれまでの調査から、睡眠時間の減少、朝食習慣の欠落や孤食なども指摘されています。

子どもにとっては、発達の土台である「生活」が「安心・安全」であること、そして「安定」していることはとても重要です。しかし、子どもの生活を支える親や家族も、不安定雇用や健康問題、介護などの生活上の困難を幾重にも抱え、非常に不安定になっている場合が少なくありません。とりわけ、子どもに病気や障がいがあると、家族依存を前提とした日本の福祉制度においては、たちどころに困難な状況に追い込まれてしまいます。

生活の問題は家庭内にあるため、外からは見えにくく、本人や家族がSOSを出さない限り、なかなか支援につながらないのが現状です。冒頭のAさんの家庭も、幼児期から既に母親の病気で両親が離婚、たちまち養育困難に陥り、経済的困難となりました。なんとか行政、病院、学校へとつながり、第三者の適切な支援でAさんは自分の将来を描くまで変わることができたのだと思います。

今、全国的に地域で子どもの生活を守っていくこと、「子ども食堂」や「学習支援」などが広がっています。あらためて、子どもを、家庭を、孤立させない地域づくりが大切だと感じています。



新図書館完成へのカウントダウン！

新図書館は、防音シートが外されて姿を現しました。建物の大きさが実感でき、完成への期待も高まります。



▲新図書館工事の様子

～新図書館の構成～

新図書館は3階建てです。図書館というと静かなイメージですが、1階はグループで討論や打ち合わせなどができるおしゃべり自由な空間。2階は本棚を低めに統一し、くつろいだ雰囲気読書を楽しめるようなフロアです。3階は専門書

が中心になり、キャレル(個人用閲覧席)も多数設置しますので、落ち着いて学習できる場になります。

階が上がるほど静かな環境となり、目的に応じた場所を選べます。

- 市立大学図書館 開館時間変更・休館のお知らせ
 - 8月6日(土)は土曜開館(9:00~16:00)
 - 8月10日(水)~9月16日(金)は短縮開館(9:00~19:00)
 - 8月11日(木)~15日(月)は休館
- 問い合わせ
 - 名寄市立大学図書館
 - ☎01654②4199(本館:内線3114/分館:内線2200)

こどもの居場所 こども食堂 こどもの学習支援



がはじまります

市と社会福祉協議会、市立大学では、地域で子どもの居場所や食・学習を通じて、健全な子どもたちの成長を支えるため、こどもの居場所、こども食堂、こどもの学習支援をはじめます。

こどもの居場所 すぴか

地域の中で子どもたちが安心・安全に過ごせる場をつくるため、こどもの学習支援やこども食堂の開催場所を居場所として開放します。

こどもの居場所では、ゲームで遊んだり、本を読んだり、ただぼーっと過ごしたり、ボランティアと話したり、過ごし方は自由です。



こども食堂 だだちゃ

大学生やボランティアと一緒に、ごはんをつかって、一緒に食べます。子ども1人の参加や飛び込み参加も大歓迎です。

地域の皆さんと子どもたちでごはんをつかって、食べる。食育を通じて子どもたちの成長を地域で支えています。



こどもの学習支援 もっちもち

大学生やボランティアが中心となり、学習習慣や学び直しなど子どもたちの学習をサポートします。

「勉強が手につかない」、「宿題や授業についていけない、分からない」など子どもの学習状況に応じて、学校の宿題や教材などを活用しながら、学習の悩みの解消に向けて一緒に取り組みます。夏休みには、自由研究のサポートも行います。



さっそく開催！

さっそくこどもの居場所、こども食堂、こどもの学習支援を開催します。

多くの子どもたちの参加、飛び込み参加をお待ちしています。親子連れも大歓迎です。

- ◆とき 8月12日(金) 10:30頃～15:00頃
- ◆ところ 市民文化センター東館
- ◆プログラム

こどもの居場所 すぴか	10:30頃～15:00頃 場所を開放します。
こども食堂 だだちゃ	11:00頃 料理をはじめます。 12:00頃 食べはじめます。 【メニュー】 カレーライスほか ※アレルギー対策はできません。
こどもの学習支援 もっちもち	13:00頃 勉強をはじめます。 ※午前からも対応可能です。

今後について

今後の開催は、市立大学ホームページや市立大学公式フェイスブックなどで取り組みや日程をお知らせしていきます。また、いろいろな場所で行ったり、開催回数を多くして、子どもたちが参加しやすい環境を整えていきます。

取り組みへのアイデアなどがありましたら、ご連絡ください。



問い合わせ

名寄市立大学 松岡研究室

☎ 01654-2-4194

FAX 01654-3-3354

✉ matsuo.k.lab@nayoro.ac.jp

HP <http://www.nayoro.ac.jp>